

## 2022年総合生活改善の取り組みについての談話

### 1. 取り組み経過

#### <要求状況>

- 「個別賃金要求」は、中堅労働者で599単組、若手労働者で339単組となっており、「絶対額を重視した取り組み」が着実に進んでいる。
- 「平均賃金要求」は、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた総額の要求額(単純平均)は6,121円となっている。要求を提出した単組のうち94.4%にあたる953単組が賃金改善分を要求している。また、300人未満の単組が最も高い賃金改善要求を行っている。
- 変革期を迎えている自動車産業において、中期的な展望を切り拓くべく、目指すべき賃金の絶対水準、あるいは自分たちの職場状況を踏まえた賃金課題を基に要求・交渉を実施している。この取り組みにより、目指すべき賃金水準に向け歩みを進め、底上げ・底支え、格差是正に繋げていくという各単組の強い意思が表れている。
- 「年間一時金」は、要求月数(単純平均)は4.69ヵ月となっている。コロナ禍や半導体不足の影響等により各社とも厳しい業績見通しの中、組合員の一年間の努力・頑張り・成果などに報いるとともに、生活の安心・安定感を踏まえた力強い要求となっている。
- 通年の取り組みを含め多くの単組で、ITツールの活用、職場環境改善など、新たな働き方に向けた論議を行っている。これらの取り組みを通じて、生産性の向上とその先にある競争力の強化、また、全ての仲間の意欲・やりがいの向上、多様な働き方が実現できる職場づくりを進めている。
- 要求全体として、各単組が自動車総連の方針に則り、賃上げを軸とした人への投資や新たな時代の働き方などに積極的に取り組むことで、「働く者の総合的な底上げ・底支え、格差是正」を実現するという強い思いが表れていると受け止める。

#### <交渉状況>

- これまでの交渉を経て、組合の要求趣旨や会社を取り巻く環境、コロナ禍や半導体不足による困難下においても生産性向上に取り組んだことによる労働の質的向上について労使での理解が深まっている。とりわけ、産業の大変革期の熾烈な競争環境を生き抜くため、また、各単組における賃金課題・職場課題を解決していくため、「人への投資」の必要性そのものについては、労使の認識が合っているものと受け止めている。
- しかしながら経営側は、具体的水準について部品調達リスクや原材料価格・輸送コストの高騰が収益に与える影響、カーボンニュートラルを踏まえた中長期の競争力への影響、ロシアによるウクライナへの侵略、また、最適な「人への投資」のあり方をギリギリまで見極めたいとし、総じて厳しい姿勢を崩さなかった。
- こうした状況のもと、全ての単組の最大限の回答を引き出すべく、第3回の中央戦術委員会で回答引き出しに向けた基本態度を確認し、最後の最後まで交渉を追い上げていくこととした。

## 2. メーカー一部会主要 12 単組の回答状況（午後 4 時現在）

### <月例賃金>

- 自動車産業の変革期の熾烈な競争を生き抜くため、また各単組における賃金課題・職場課題を解決するため、「賃上げを軸とした人への投資」の重要性を訴え、それぞれの単組における「自らの要求」を満たし得る最大限の回答を引き出すべく、最後まで粘り強く交渉を押し込んできた。
- 要求・回答の内容は各単組の状況により異なるものの、各単組の踏ん張りにより、それぞれにとっての「最大限の回答」を引き出すことができた。コロナ禍や半導体不足、またロシアによるウクライナへの侵略などを背景に大変難しい交渉環境の中、中長期での目指すべき方向性に向けた議論を深め、結果として賃金引き上げの流れを確かにしたことは大きな収穫であると受け止める。

### <年間一時金>

- コロナ禍や半導体不足の影響による困難下、組合員の努力・頑張りと成果に報い、また組合員の安心・安定感の確保に繋がる年間での回答を引き出すべく、各単組が粘り強く最後の最後まで取り組んだ結果と受け止める。

### <働き方に関する取り組み>

- 自動車産業の変革期やコロナ禍を踏まえた新たな働き方を踏まえ、各職場の課題解決や生産性の向上、そして新たな時代の働き方の実現に向けた積極的な議論が行われ、職場課題の解決に向けた取り組みを加速させることができた。

### <非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 各単組の要求にあわせ、処遇改善などの回答を引き出しており、同じ職場で働く仲間の意欲・活力及び一体感の向上や、同一価値労働同一賃金の取り組み前進に繋がるなど、労働組合の社会的役割を果たしたものと受け止めている。

### <現時点での受け止め>

- 部品供給不足に対する懸念、エネルギー価格の高騰が収益に与える影響、更にはロシアによるウクライナへの侵略などより日増しに交渉環境が悪化してきた。一方、足下の環境に左右されることなく、自社や自動車産業の将来や課題解決に向けた議論を労使が目線を合わせ、例年以上に真摯に議論できたと受け止めている。そうした中で中長期的に継続した賃金引き上げの必要性について、更に認識を深められたことが今回の回答に繋がっていると受け止めている。
- これから本格化していく中堅・中小単組の回答引き出しに向けては、各社の業績を踏まえ、経営側は厳しい姿勢を示すことが予想される。今回、メーカーを中心とした先行組合が行った充実した議論やこれまで労使で培ってきた人への投資の必要性に対する共通認識を土台にして、自社の中長期的な進むべき方向性とそのために必要な目指すべき賃金水準の実現に向け、徹底した議論を進め回答を引き出していく必要がある。そのことで、自動車総連が目指す「働く者の総合的な底上げ・底支え、格差是正」を実現させていきたい。

## 3. 今後の進め方

- 今後、中堅・中小単組を中心に、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎えることになる。3月16日（水）から3月25日（金）の間で集中的に「最大限の回答」を引き出すとともに、自動車総連全体では3月末決着を目指し取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図っていく。

以上